

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2011年
1・2月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

「聖なる家族」

司祭 ヨハネ 芳我秀一

教務局長に就任して二年目を迎えました。神戸教区が生きた神の家族として、与えられていた福音宣教の使命を果たすために努力して参りたいと思います。

不完全で歪んだ世界

クリスマスは各教会で盛大にお祝いされたことと思いきす。クリスマスと云えば喜びと感謝に満ちた楽しい行事として人々には受け入れられています。しかし、二千年前の最初のクリスマスは決して楽しい出来事ではありませんでした。



当時のユダヤを支配していたヘロデ大王は、東方の博士たちから、もう一人のユダヤ人の王が生まれると聞かされ、不安になってその地方に

いる二歳以下の子どもたちを殺す命令を出したのでした。ヘロデにとってもう一人の王は必要ありません。彼は自分の身を守るために、イエスを殺そうとしたのです。人間は自分を守ろうとすると、相手を守り、歪んでいるということになります。また相手を守ろうとすると自分を守れなくなるのです。これが現実の世界で不完全であり、歪んでいるということになります。この不完全で歪んだ世界に、完全で偽りのない永遠なる者が介入して来たために、現実の世界は狼狽し、完全で聖なる者を排除しようとするのです。

このヘロデ大王による幼児虐殺の危機に際して、ヨセフは天使の勧告に従ってマリヤとイエスを連れてエジプトに逃げましたが、やがて天使を通してヘロデが既に死んだのでイスラエルの地に行くように勧告され再び帰って来たのでした。

聖家族とは

とここで、彼らは神の子イエスを中心とする最初の家族でした。教会の原型とも云うべきものです。この家族を「聖なる家族」と呼びますが、聖なる家族とはどのような家族なのでしょう。聖なる家族だからといってこの世界で祝福され、平和に生きられるとは限りません。むしろ聖なる家族ゆえにこの世界から迫害され、生命の危険にさらされるのです。しかし、聖なる家族は、苦しみや困難に出会っても決して自分たちだけで勝手に判断し行動しないで、神のみ言葉に固く信頼して立ち向かっていく家族です。つまり、人間には常に苦しみや困難が待ち受けています。しかし、その苦しみは直面したとき、あなたはどのように立ち向かっていくのですか、と聖なる家族は問いかけてくるのです。

聖公会全体が苦しんでいます。教勢が伸びず衰退傾向に歯止めがききません。しかし、このような衰退の一步をたどっている教区の流れにストップを掛けようとする教区会や「宣教委員会設立」の議案が承認され、七月には全教役者と各教会から代表一名が出席して「教区宣教協議会」が開催されることが決まりました。これによって各教会の健康診断が実施されることになり教区全体で問題点を共有することができそうです。しかし、既存の教会の現状に於いて伝道を妨げている原因を追究すれば必ず反発があり、また分裂が予想されます。だからこの問題は慎重に進めなくてはなりません。しかし、それでもどうすれば教会が生き生きと伝道する教会になれるのか、教会に集う家族一人一人が自らの愚かさを自覚して、キリストの十字架を仰ぎ見ながらこの問題の解決に向けて勇気を持って第一歩を踏み出していただきたいと思えます。

教区の問題と課題

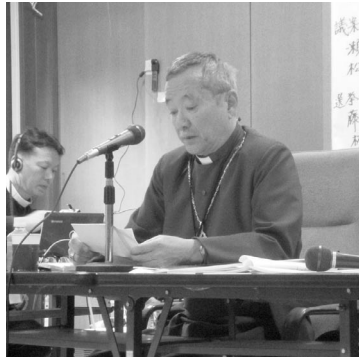
現在、教区はもとより日本

(姫路頭栄教会牧師・

鳥取聖ルカ教会管理牧師)

神戸教区第78定期教区会 教区主教開会演説 (抜粋)

神戸教区 主教 アンデレ 中 村 豊



2010年の動き

1. 人の動き

春の異動で、教区27教会の内ほぼ半数、13教会の牧師・管理牧師が替わりました。また松尾常雄司祭は、来年3月をもってブラジルに帰国されます。

3月22日、司祭按手式を挙行し、長田吉史、與賀田光嗣両司祭が誕生しました。また杉野達也兄を教区神学生と認め、4月からウイリアムス神学院に入学しました。そして来年3月にウイリアムス神学院を卒業予定の池澤隆輝神学生はこの度、聖職候補生に認

可されました。

2. 教会の動き

2月13日、明石聖マリア・マグダレン教会会館・牧師館の落成式には、北関東教区広田主教をはじめコンウォール・リー宣教師関係者など多数が参加されました。

そして9月23日には神戸昇天教会礼拝堂聖別百年記念礼拝が挙行され、約二〇〇名の関係者がお祝いに駆けつけました。

3. 教区・管区の動き

6月半ばより開始された大聖堂耐震改修工事は、予定通り8月末に完了しました。工事費全てを、来年3月末で終了する献金で賄えることを望みます。また予想を超える金額が献げられた場合は、余剰金を大聖堂建築基金に繰り入れることを提案いたします。

工事を完了感謝礼拝は、関係者約三五〇名が集い、10月11日に行われました。なお、近

年中にパイプオルガンが大聖堂に設置されることを願い、来年度からパイプオルガン募金を開始します。

2月11日、中部教区主教按手式後に、神戸、九州、沖縄の3教区の平和関連プログラム・青年活動などへの協働を協議しました。これに従い、今年度、神戸教区では長崎平和礼拝への参加を積極的に推進しました。来年は沖縄関連行事への積極的参加が期待されております。

セクシユアル・ハラスメント委員会はパンフレットを作成し、各教会に配布しました。今後、各伝道区・教会も、セクシユアル・ハラスメントへの認識を深めるための研修などを実施していただくようお願いいたします。なお、来年度は、セクシユアル・ハラスメントに限定せず、ハラスメント全般を取り扱う組織改編に向けて、調査、研究を開始します。

昨年度、教区会演説で「神戸教区においても、特に東アジアの教会を視野に入れた宣教協働への模索が2010年から開始されること」を望みましたが、この計画は手つかずに終わりました。今後、宣

教部の役割を明確化した上で、これを検討し、実施していきたいと思えます。

6月28日から29日、韓国済州島で日韓合同主教会が開催されました。日韓併合100年の年にあたり、歴史検証を共有し、両管区の今後の課題について協議しました。そして、100年前の歴史的事実について言及し、今後、両聖公会の協働体勢をより密にするのが、過去の歴史の償いとなることを明確化しました。

6年間をふり返る

私が教区主教に就任し、6年の歳月が経過しました。これを機会に、過去をふり返り、今後6年間の教区内各教会の宣教をどのように捕らえていくかの道筋を、明らかにしたいと思います。

1. 統計から見える動向

過去6年の信徒増減、献金額の統計によりますと、現在受聖餐者は04年1,592名から09年1,530名となり、62名減少しております。財政面においては、6年前と比較しますと普通献金が1,351万円減少し、収入合計にお

いても、2,030万円減少しております。

過去6年間で217名の信徒が天に召されましたが、これまで献げてこられた尊い月々の献金と同額を、その殆どが、子どもや中高生が大半を占める堅信受領者が、献げることには不可能であり、各教会の財政危機は当分続くことを覚悟しなければなりません。

2. 教役者と教区組織

教役者数ですが、6年間で退職された聖職は5名、司祭に叙任された者は4名、聖職候補生は2名、神学生は1名で、2名の教役者増加が期待されております。

また、神戸教区の宣教活動を活性化させるための一環として、まず主教座聖堂参事会を2005年に改編し、聖職按手式、大聖堂聖別50年などの教区礼拝や耐震改修工事に主導的な役割を果たし、信徒の研修などを定期的に開催しております。

次に、教役者・信徒の、人間の尊厳を損なう言動に対し、これをチェックし、適切な対応と啓発活動を行うために、セクシユアル・ハラスメント対策委員会が設置されました。



そして、今教区会では宣教問題に取り組むための宣教委員会が組織化されようとしております。

3. 教会・教区の出来事

2006年7月、倉敷伝道所は、倉敷市内に拠点を移し、本格的に宣教活動を開始しました。倉敷地域の信徒の発掘などを通して信徒数が増え、地域社会に根ざした活動が実施されており。なお、倉敷伝道所からの要望で、伝道所と呼び名を、名実共に教会として成長することを念願し、通称「聖クリストファー教会」とすることを認めました。

また、「広島平和礼拝」は今年で5回目を数え、教区のみならず管区や、聖公会関係

諸学校からも多くの参加者を得て、被爆地ヒロシマから、原爆の悲惨と平和への希求を発信しています。

そして、日本聖公会宣教150年の2009年9月、神戸聖ミカエル大聖堂聖別50年記念礼拝を、ミャンマー聖公会首座主教とUSPG総主事を招きして盛大に実施することができました。

教区宣教一四〇年に向けて

2016年、私たちは、神戸教区宣教140年を迎えますが、神戸教区は、キリストの枝として、宣教の使命を今一度検証することが切実に求められております。

1. 教会の存在理由

私の在任中、2教会を除き、全ての教会の牧師・管理牧師が異動しました。従いまして、各教会の牧師・管理牧師は、今遣わされた地にしっかりと腰を据えて宣教・牧会に励むよう、お願いします。そして、信徒と協働して、現在、保有している人的・物的資源を視野に入れつつ、様々な角度から新たな宣教の可能性の検討を始めてくださるよう、お願

いたします。協議に際し、地域社会のなかに在る教会は、「宣教活動、福祉活動、教育活動、社会・政治活動」の使命を担っていることを念頭におく必要があります。

2. 4年の幻

2011年7月18日(海の日)、神戸教区宣教協議会を開催します。会議には、全教役者と教会代表、教区の名を戴く組織の長が参加し、教区や各教会の現状を共有します。協議会后、各教会に於いては、牧師及び代表者は自教会の現状を教員と分析し、これを共有し、様々な意見を吸い上げながら、宣教の可能性を模索し、実現可能と思われる選択肢の中からより適切な事柄について、2016年目標の幻(ビジョン)を設定し、それらを実行して頂きたいと思えます。伝道区、教区各委員会、教会の宣教活動を側面から支援するために、何が求められているかを検証することが、同時に必要です。

2014年に中間評価を行い、2016年には、大々的に、教区宣教140年をお祝いし、その翌年、新主教のもと、次の宣教段階の第一歩と

したいと念願する次第です。各教会では、協議の過程で、様々な意見や提案が出されることを期待しますが、今教区会で成立予定の教区宣教委員会は、各教会との協働体制をとりつつ、最大限の援助を提供する覚悟でおります。

3. 変わることへの 勇気と祈り

教会の健康診断実施には、相当な覚悟が求められます。このまま、問題点を深く考えずに、毎日を大過なく過ごすほうが、よほど安全で幸せかと錯覚するからです。問題が露わになれば、教会の志気に影響することを危惧する方も多くおられると想像します。大変な努力と熱意がなければ、教会の実態を教会に属する人たちが共有し、共通理解を得ることは困難です。しかも、この過程を経ずに、いくら幻を掲げても、それは机上の空論となることは明白です。従って、何もしない方がよい、ということになりかねません。

聖パウロがエフェソの信徒に對して、「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことよってしっかりと組み合わされ、結び合わされ

て、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです(四・一六)」と述べる通り、キリストの体である教会は、キリスト者相互の愛に基づき奉仕によって成長させることが求められます。

現存する教区の力を結集すれば、教会の変革は決して不可能ではありません。最も必要なことである幻(ビジョン)の構築は、私たちの心を奮い立たせ、これに関わる人々を巻き込み、夢を提供するものでなければ、意味を持たないということ。高年齢の方々は、自分たちの長い信仰生活によっても、成し遂げられなかった宣教のビジョンを次世代の人たちに伝えてくださるよう、お願いいたします。

次世代の教会を担う人たちは、信仰の先輩が果たせなかった夢を実現させるため、それに向かつて前進する決意をもってください。

教会・教区の変革への勇気と使命を神が私たち一人ひとりに与えて下さるよう、神戸教区に関わる全ての人たちの篤い祈りをお願いいたします。

第(78)定期教区会報告

教区に宣教委員会設立

11月23日(火)午前8時の開会聖餐式をもって、第(78)定期教区会は開会しました。点呼の結果、教役者議員21名中18名、信徒代議員37名中33名の出席を確認し、教区会の成立が宣言されました。番外議員推薦、信徒代議員歓迎などの後、今年逝去された元教役者議員・信徒代議員を覚えて黙祷が献げられた後、議長である中村教区主教が開会演説を語られました。
(抜粋を2〜3頁に掲載)



諸報告の承認・議案審議と議事は進められ、報告と提出された10議案はすべて承認、可決されました。

日程より少し遅れ、午後3時45分から、常置委員選挙が実施され、選挙の後、今年堅信50年を迎えられた34名の方々を代表して日下右二兄(徳島インマヌエル教会)と野本忠江姉(松山聖アンデレ教会)に記念品が中村主教から贈呈され、お二人から謝辞が述べられました。

選挙後も議案審議が行われ、午後5時に議事は終了しました。

開会礼拝信施金50,276円は、収穫感謝献金に献げられたという報告の後、一同で主の祈りをささげ、中村主教の祝祷をもって、午後5時10分に閉会となりました。

* * *

本教区会で特筆すべきことは、「宣教委員会」設立の議案が可決され、それを受けて来年の7月18日(海の日)に教区宣教協議会が開催されること、会議の中で約1時間の時間を「セクシャルハラスメント対策委員会による啓発活動」のために用いたことです。



2011年常置委員選挙結果は以下の通りです。

- 【聖職】司祭 芳我秀一
司祭 上原信幸
司祭 小南 晃
- 【信徒】松田嘉彦兄
宮永好章兄
大東康人兄

議場で教区主教より任命されたチャプレン、担当は以下の通りです。

- 中高生チャプレン
司祭 長田吉史
- 青年担当
司祭 林 和広

(藤井 記)

2010年度 堅信50年顕彰者

(敬称略)

- リベカ 安井 彰子
 - エスター 花木つや子
 - マリア 内海 安子
 - モニカ 藤間 孝子
 - ヨセフ 戸谷 敬一
 - アグネス 藤井 満栄
 - モニカ 木原志保子
 - マタイ 八代 正敦
 - ロイス 新妻 倫子
 - パウロ 堀田寛太郎
 - ルツ 菅沼 瑠美
 - リベカ 三木 高子
 - マリア 坪田 サト
- (神戸聖ミカエル教会)

- ロイス 吉井 順子
- (神戸聖ペテロ教会)



- ステパノ 井上 英士
 - クララ 森本 潤子
 - マリア 西村 幸枝
- (神戸昇天教会)

- マリア・マグダレン 楊 少 蘭
- (明石聖マリア・マグダレン教会)

- ダビデ 有木 紘二
 - ヨハネ 岡上 義征
- (福山諸聖徒教会)

- ロイス 竹下美智子
 - エリザベツ 尾崎 安子
 - アンデレ 丸山 健一
- (浜田基督教会)

- モーセ 塔田 光俊
- (米子聖ニコラス教会)

- マリア 野本 忠江
 - マタイ 富森 頼英
- (松山聖アンデレ教会)

- テモテ 山崎 正道
 - ルカ 土居 利光
- (高知聖パウロ教会)

- パウロ 島村 忠男
 - ヨハネ 日下 右二
 - エステル 松岡 芳子
 - ベタニヤのマリア 浦崎千恵子
 - マグダラのマリア 山口 マサ
- (徳島インマヌエル教会)

- テモテ 元木 昭
- (徳島聖テモテ教会)

アングリカン・ファミリー・ギャザリングに参加して

司祭 ヨシユア 長 田 吉 史

この度、2010年12月1日(水)～6日(月)の間、ミャンマー聖公会(以下、CPM)で行われた「アングリカン・ファミリー・ギャザリング (Anglican Family Gathering)」に出席させていただきました。

この集まりでは『御心が行われますよ!』(マタイ6:10)が聖句として掲げられ、CPM内の6つの教区すべてから聖職、信徒が国の北部に位置するミッチーナ教区に集まり、その他、韓国、マレーシア、



豪州、英国、そして日本からもゲスト参加があり、総勢2000人以上が集まりました。この集まりでは、朝・夕の礼拝、聖餐式、堅信式、宣教に関する講演と聖書研究、そして毎晩フェスティバルが行われ、CPMの参加者が各地の民族衣装を着て歌ったり踊ったり、また様々なコンテストが催されていました。

そのようなプログラムの中で、大主教様がCPMでの宣教について以下のように説かれました。残念ながらすべてミャンマー語での講演だったので何を仰っていたのかはわかりませんでしたので、予め配られた大主教様の講演の要約ノートから(私の解釈も加えて)少し報告させていただきます。

* * *

「私たちが住んでいるところ働いているところから神の王国を広げるためには、どうすればいいのか」

CPMでは、この神の王国



拡大のために福音宣教師、また指導者の養成、そして新しい活動(使命)の場の開拓、それと同時に健康面においては診療所や病院の開業、また聖公会医療センターとしての看護師や医者、移動医療チームの養成、教育面においては託児所や幼稚園、小学校などの開園・開校、その他農業や畜産、漁業の発展なども必要であるとされました。

そしてそのような活動の場において、CPMの信徒一人ひとりが福音宣教師として、神の導きによって働きかけることによって神の王国が広がるということ、そのことから現在62,000人のCPMの信徒数が2020年には10

万人までに増えるようになることを期待され、また自分たちのうちに神の愛、平和、喜び、真理を、そしてまたキリストご自身を見出せるようになるだろう、と説かれました。

この集まりに参加する道中、ミャンマー国内の様々な現状を見聞きする機会があったのですが、その現状とは、例えば医療関係に乏しく、HIVや癌などの治療には隣国へ行かなければならないことがある他、様々な病を患って病院や診療所で診てもらうにも貧しさ故に、病院や診療所に行くことができない方々が多くいるという状況でした。

またそのことに比例しているかのように、学校に行けない子どもたちもたくさんいて、朝から晩まで家やその他の場所働いている子たち、またストーリーチルドレンもたくさんいました。

まさにそのことから、大主教様の示された宣教方策と自分の目と耳で見聞きしたことが一つとなり、私たち自身もそのような社会の現状に沿った方策を説かれたCPMに倣って、自分たちがおかれた場で何が求められ、何が必要とされているのかという声を聞き、

聖餐式を中心として神の王国拡大のための働き手となることが急務になっているということを改めて実感させられました。

* * *

この度の参加では、以上のような大主教様からの宣教についての講演だけでなく、4日目の夕方に行われた、大主教様、ミッチーナ教区主教様、マンダレー教区主教様の3人の主教様から100人以上の方々が受けられた堅信式に立ち会うなど、いろんな印象的なこと、そしてたくさん示唆が与えられました。

その印象的なことや示唆をどのように生かすのかと言うことが今後の私の課題ですが、それは一人ではなく、私たちが日本聖公会、ことに神戸教区が一つとなってこそ、神の王国の宣教につながるはずで

共に考え、共に聞き、共に神の王国の宣教の働き手として、それは年代や技術の偏りもなくすべての人が互いに受け入れ、受け入れられて一つとなることによって御心が行われるようになるのではないのでしょうか。

(広島復活教会副牧師・

松山聖アンブレ教会管理牧師)

二〇一〇年 秋から冬にかけての教区内ニュース

広島伝道区婦人会共同主催 高木シスター講演会

10月31日(日)、広島伝道区婦人会共同主催で高木慶子シスター(援助修道会)の講演会『愛する人をなくすということ』が広島復活教会で行われました。

伝道区内外から、また教派・宗派を越えて大変たくさんのご参加を頂き、高木シスターのユーモアを交えた、「死」について、「キリスト者としての死生観」についてのお話をお聞きしました。高木シスターが体験された「緩和ケアにおける看取り」のお働きの中から「見送る側・見送られる側」について大きな学びが与えられました。

(参加者79名)。



徳島伝道区旧青年の集い



11月28日(日)の主日礼拝は徳島インマヌエル教会と徳島聖テモテ教会にて、それぞれ参加し、午後から共に徳島グランヴィリオホテルに集い同窓会を行いました。参加者は32名あり、昔の青年会初代会長であった古本純一郎主教様の思い出などのお話しをしていただきました。長い間教会生活から離れていたという方々も参加していただき、約40年前に返ってなつかしい交わりができたことを、うれしく思いました。この機会に離れていた方々が、教会に連なることが

できますことを祈っております。

(徳島インマヌエル教会
アンナ 谷 睦子)

神戸聖ペテロ教会

景山恭子師をお招きして

聖公会神学院スピリチュアルディレクターの景山恭子先生をお招きして、12月4日(土)、降臨節講話。12月5日(日)、黙想会が行われました。

講話には神戸伝道区の他の教会からもご参加をいただき、先生の豊かな経験の中から、それぞれが『信徒として自分に何ができるか』を新たに考える機会が与えられました。

また、黙想会では今までとは違った黙想方法で指導していただき、参加者の中からは「初めて黙想というものが出来たように思う」との声が聞かれました。



徳山聖マリア教会人権担当者企画 「片岡さんのお話を聞く会」



12月5日(日) 礼拝後、「片岡一生さんのお話を聞く会」(テーマ:「ネパールへ光を灯す活動」)と題し、開発途上国への本当の支援についての講演と、対話集会が行われました。王政から民主化されたネパールの現状と課題について話され、心のこもった支援の必要性を訴えられました。

片岡さんは現在ネパール国立トリブバン大学大学院地域開発研究科修士課程一年で、「持続可能な農村開発による都市貧困者の帰農」を学ばれています。また長崎出身のローマカトリックの信徒さんです。徳山聖マリア教会では、2007年以来、アジアの隣人であるネパールの

子どもたちの支援、東京消防庁の協力を得て救急車支援などを行っています。

☆☆☆☆☆☆

各教会のクリスマス・ニュースから

◎神戸聖ヨハネ教会

クリスマス・カフェ

ヨーロッパなどでは、人々が気軽に集い、時の話題について談笑し、情報交換が出来る場を「カフェ」といいます。「クリスマス」に心洗われる音楽を聴きながら、おいしいケーキを食べることで出来る教会があれば素敵じゃない」というコンセプトから、12月23日というクリスマスシーズンに神戸聖ヨハネ教会は「クリスマス・カフェ」を開催しました。

聖堂では澄み渡る音色・ハンドベルのコンサート(須磨YMCA&松蔭中高)が、満堂の聴衆を集めて催され、地下ホールでは、焙煎コーヒーとホームメイドケーキとミニ・バザー。最後は、みんなが聖堂に集まりクリスマス・キャロリング。エンディングには、街中にクリスマスの喜びを伝えるべく、聖堂の外に飛び出し「もろびとこざりて」「荒野の果てにグロリア」



を高らかに讚美しました。

好天に恵まれた当日は、神戸伝道区の全ての教会から信徒のみなさん、そして数名の聖職が駆けつけて下さり、他教会のみなさんの奉仕の助けなしには、とても、信徒数40名足らずの小さな聖ヨハネ教会だけで実現できるはずのないイベントでしたが、今回の「クリスマス・カフェ」を通して学んだことは、もはや自力ではバザーなどの行事を開催することができなくなっている各個教会にとって、近隣教会が力を合わせて宣教に取り組む「共同司牧」という新しい教会形成の可能性を示していたと思います。

(司祭 マルコ藤井尚人)

◎倉敷聖クリストファー教会 (倉敷伝道所)

9月の常置委員会での承認後、12月24日の降誕日前夕の日に合わせて看板等の張替えなどの環境整備を行い、倉敷聖クリストファー教会として最初のイブ礼拝をお捧げしました。

教会にて開講しております中国語講座の先生や生徒の方々や信徒の方々の御友人などを含めて31名が集い、主のご降誕を祝い、交わりの時を過ごしました。今後も少しずつクリストを軸とした交わりの環が広がり、倉敷市及び近隣の地域の人々への福音の種が蒔き続けられることを祈りつつ、宣教に従事していきたいと思えます。



◎境復活教会



12月25日(土)、クリスマス礼拝を行いました。

信徒の方々と共に、聖心幼稚園の先生方もお子様連れで参列されて、聖堂の会衆席が、ほぼ満席となって主の御降誕を祝うことが出来ました。礼拝後は、2階座敷にひしめきあって親しい祝いのひとときを持ち、喜び多いクリスマスとなりました。

◎松山聖アンデレ教会

12月24日(金)、松山聖アンデレ教会では、久しぶりにイブ礼拝が行われました。

初めて教会に来られた方々、また久しぶりに来られた方々も集まって、43名の方々が共に礼拝をお献げしました。

特にこのイブ礼拝には、松山城南高校のハンドベル部、聖歌隊の皆さんも参加してください。ハンドベル部の皆さんには礼拝時間の前に教会ホール玄関先で『きよしこの夜』『He』を、礼拝の中ではクリスマスキャロルを演奏していただき、また聖歌隊の皆さんには礼拝の中で『アヴェ・マリア』『深い闇の最中に』を歌っていただき、とても豊かで、心温まるイブ礼拝となりました。



青年交流会

in 姫路顕栄教会

青年担当

司祭 タビデ林 和広

12月28日(火)〜29日(水)、約10名の青年が参加し、2010年度の青年交流会の振り返り及び、今後の青年交流会について協議しました。

中高生を経て新たに青年となる青年達について、キャンプ・サーバー(CS)として中高生大会への参与、平和についての学び、広島、長崎での平和記念行事を視野に入れた、交流会などについてであります。

また、海外(東アジア・ミャンマー、フィリピン)への旅、日韓青年セミナー、全世界青年大会(アングリカンコミュニオン)についても触れ、ワールドワイドな視野を持つことについても分かち合いました。青年の働きを覚えてお祈り下されば幸いです。

2月13日

ハンセン病問題 啓発の日

この主日は各教会でハンセン病問題啓発のために祈りください。

2月27日

聖公会生野センターのために

この主日は各教会で生野センターの活動を支援するために祈り、献金を献げてください。(献金は管区事務所へ送金ください)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

11月7日(日) アリシア 植木 かえで
リ タ 国 吉 慧 子
呉信愛教会

11月21日(日) マグダラのマリア 松井 友美
下関聖フランシス・ザビエル教会

12月25日(土) ルーシー 村上 光
ソフィア 山口 希
ラファエル 岡本 忠司
ミカエラ 岡本 優子
神戸聖ミカエル教会

12月25日(土) シモン 山本 晃儀
呉信愛教会

12月25日(土) マタイ 安岡 英樹
マリヤ 松下 麻記子
高知聖パウロ教会

祝 堅 信

11月7日(日) アリシア 植木 かえで
リ タ 国 吉 慧 子
呉信愛教会
11月21日(日) マグダラのマリア 松井 友美
下関聖フランシス・ザビエル教会

12月5日(日) ヨハネ 足立 好広
ジュリエッタ 和田 裕子
米子聖ニコラス教会

12月25日(土) ラファエル 岡本 忠司
ミカエラ 岡本 優子
神戸聖ミカエル教会

ご 逝 去

10月17日(日) アブラハム 吉田 直浩(93歳)
神戸昇天教会

11月2日(金) メグミ 小倉ナツ子(86歳)
徳島インマヌエル教会

11月20日(土) マグダラのマリア 吉村 敏子(90歳)
下関聖フランシス・ザビエル教会

11月24日(水) リベカ 草間 操(97歳)
神戸昇天教会

11月25日(木) アタナシウス 堀江 武弘(85歳)
神戸聖ミカエル教会

12月17日(金) ル ツ 内匠 梅子(87歳)
神戸聖ペテロ教会

12月21日(火) ヨ ブ 木下 正彦(85歳)
米子聖ニコラス教会

12月25日(土) ヨハネ 木村 敏美(83歳)
洲本真光教会

教 籍 移 動

11月1日(月) アグネス 廣瀬 史子

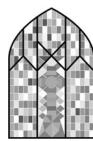
グレース 宮川 靖子
中部教区

名古屋聖マタイ教会より
神戸聖ミカエル教会へ

12月1日(水) クリスティーナ 下地 道子
明石聖マリア・
マグダレン教会より
大阪教区川口基督教会へ

12月4日(土) フランシス 渡 辺 守
クララ 渡 辺 寛子
神戸聖ミカエル教会より
姫路顕栄教会へ

12月29日(水) ヨセフ 岩木 一仁
広島復活教会より
神戸昇天教会へ



広 島 伝 道 区

◎広島復活教会

12月26日(日) 今年度最後のホームレスの人たちへの炊き出しを行った。

今回は、カレライイスと復活教会牧師特製の辛いキムチ。それとつきたてのお餅も配って喜ばれた。来会者約60人、ボランティア約20人、カトリックからは見学二人の神父さんもみえられた。

1月12日(水)は、夜回りの人たちが配るおむすび1000人前の奉仕を行う。

《次号予定》

巻頭 平野 一郎 司祭
阪神大震災記念礼拝
教区事務所会議報告 他

2月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2011年2月3日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 松尾 常雄

* 2月の記念逝去教役者*

3日	司 祭	ハリー・ウッドワード
5日	司 祭	パークレイ・F・バックストン
5日	司 祭	ヤコブ 牧野 與三郎
5日	主 教	モーセ 村尾 昇一
6日	司 祭	竹内 宗六
7日	宣教師	ホノリア・j・ウォージントン
11日	司 祭	ヨハネ 中道 政市
12日	伝道師	小南 アサ
12日	伝道師	高木 ぬひ
13日	宣教師	フローレンス・M・ファギル
16日	司 祭	ジョージ A ブライドル
17日	司 祭	ジョージ・H・ポール
20日	司 祭	ヨセフ 田中 愛次
23日	伝道師	西村 ひろ
不明	宣教師	アリス・パーカー

3月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2011年3月3日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 八代 智

* 3月の記念逝去教役者*

3日	司 祭	F・ケテルウェル
6日	宣教師	アリス・ロバーツ
11日	宣教師	A・オグレスビー
12日	主 教	ヤコブ 八代 崇
13日	伝道師	明山 せつ
16日	宣教師	エリザベス・ナッシュ
17日	司 祭	エリック・アレン
17日	宣教師	F・E・ガーデナー
21日	主 教	ヒュウ・J・フォスト
22日	司 祭	オリバー・H・ナイト
22日	伝道師	ナオミ 広瀬 なおみ
23日	伝道師	ハンナ 田中 ハナ子
25日	伝道師	億川 三重
27日	伝道師	中尾 ミサヲ
27日	司 祭	ウォルター・ウェストン
29日	司 祭	ステパノ 袴田 観一
30日	司 祭	ヨハネ 粟飯原 亀一
31日	伝道師	マリヤ 阿部 浄